



Title	編集後記
Citation	教授学の探究, 26
Issue Date	2009-02-16
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/35606
Type	bulletin (article)
File Information	kouki.pdf



[Instructions for use](#)

【編集後記】

全国的な学力調査（2007年と2008年に実施された全国学力・学習状況調査）の結果について、文科省の方針は、国が公表するのは都道府県単位までとし、都道府県の対応は、原則として国における公表レベルや内容と同等であることが適当というものでした。ところが、去年は情報公開という御旗のもと、一部の自治体で調査結果のデータの詳細が公開されました。

全国的な学力調査のデータは放射性廃棄物のようなものです。原子炉の運転と同様に、学力調査を実施し続ければデータは溜まっていきます。外部に洩れると危険なので、厳重に保管しなければなりません。毎年増えていくデータは一見役に立ちそうなのですが、安全に加工して利用するのはなかなか難しい。今年もあつかいが厄介な情報がつくられるのでしょう。

地域の小中高校の教師が日々緊密に連絡を取り合い、子どもの学力についてリアルに把握し、自らの教育を改善するプランを作成していくのは当然の仕事です。各地で独自に実施している学力調査もあります。全国的な学力調査を実施しなければ、こうした当然の仕事が始まらないのでは困ります。大学と小中高・地域との連携、研究成果の活用などを展開するとき、グローバルに活動する大胆さとあわせて、北海道の地に足をつけて地道に進める繊細さをあわせもつことが必要なのだと思う今日この頃です。【E】

編集委員

須田 勝彦

大竹 政美

大野 栄三

教授学の探究 第26号

2009年2月12日 印刷

2009年2月16日 発行

編集・発行 北海道大学大学院教育学研究院
教育方法学研究室
(060-0811 札幌市北区北11条西7丁目)

印刷所 北海道印刷企画株式会社
(064-0811 札幌市中央区南11条西9丁目)
